



日本パソコン 黎明記

日本コンピューター激動の時代

記事で見る日本のパソコン史1974-1993

はじめに

本書は月刊I/Oに2020年3月号から2026年4月号まで連載された「I/O年代記」を元に、パソコン(マイコン)が誕生した1974年からコモディティ化した1993年までの18年間の出来事を振り返るものです。

米国西海岸のカウンター・カルチャーを土台とした自然発生的なコミュニティからベンチャー企業が誕生し、株式公開(IPO)で優良企業の一角を占めるまで成長する様はまさにアメリカン・ドリームを体現したものですが、経営者に求められる資質の変化が創業者の居場所を奪い、停滞した企業は市場から退出していきます。

一方、日本では伝統的なメーカーから社内ベンチャーに近い形で「マイコン・キット」が発売されるも、米国でのパソコンの成功を目の当たりにすると情報処理製品群(ポータフォリオ)の戦略商品として熾烈な販売競争が繰り広げられますが、横並び意識が強いメーカーの中でパソコンは製品仕様の自由度を失います。

本書では日米それぞれの流れをI/Oの記事で振り返ります。当時記事で予見した方向性は今日振り返ると必ずしも正確ではないかもしれませんが時代の熱気を感じさせてくれます。

本書から読者のみなさんがそれぞれの「年代記」を思い浮かべて頂ければ幸いです。

2026年8月

著者 山崎仁史

さまざまな技術や製品の登場とともに、コンピューターは大きく姿を変えてきました。月刊I/Oも、その時々登場した新しい製品や技術、そしてそれを取り巻く人々の動きを記事として伝えてきました。

当時を知る方には、かつて使った機種や出来事を懐かしく思い出していただければと思います。そして、知らない方には、「こんなコンピューターがあり、こんな時代があったのか」と、現在につながる技術の歩みに思いを馳せていただければ幸いです。

この一冊が、日本のパソコンが歩んできた時代を振り返る、小さな記録となることを願っています。

工学社 代表取締役 星陽平

目次

はじめに.....	3
-----------	---

1974-79年黎明- 自作マイコンからメーカー製パソコンへ

[001] ホビー・エレクトロニクスの情報誌.....	8
[002] ホームコンピュータの誕生 - 1977 trinity.....	10
[003] 国産機の登場.....	12
[004] 16bit CPUの発売.....	14
[005] I/O掲載記事より - マイコンの可能性を探る.....	16
[006] I/O掲載記事より - 多彩なソフトの発表.....	18
[007] I/O創刊3周年.....	20

1980-1983年 高精細カラー表示に対応する8bitホビー機とポケコン

[001] 百花繚乱のパソコン市場.....	22
[002] ホビー・ゲーム市場の縮小と統一規格.....	30
[003] オフィス需要を取り込む米国市場.....	31
[004] オフコンの登場.....	33
[005] ポケットコンピュータの登場.....	38
[006] I/O投稿記事から - 高精細表示を活かしたソフト.....	41
[007] OS・プログラミング言語.....	43
[008] I/O掲載記事より - ハードウェア.....	45

1984-1985年 16bitパソコンの胎動

[001] 成熟期を迎える8bitホビー機.....	48
[002] 16bitパソコン.....	52
[003] 米国の動向.....	56
[004] オフコン.....	58
[005] パソコン通信とOS.....	60

1986-1987年 国民機 PC-9801

[001] NEC - PC-9801とPC-98シリーズ.....	64
[002] EPSONとSHARPの動向.....	66
[003] NECの対抗策.....	68
[004] EPSONの追撃とNECの互換機対策.....	70
[005] Apple.....	73
[006] IBM.....	76
[007] FMシリーズの一新.....	78
[008] ビジネス機・情報端末・ホビー機.....	80
[009] SHARP X68000と対抗ホビー機.....	82
[010] ポケコン.....	85
[011] 業務用端末・ワークステーション.....	88
[012] CPU.....	89
[013] OSとソフトウェア.....	91
[014] ホビー市場のシェア.....	95

1988年 32bitパソコン

[001]	各種PC-9801機の登場	98
[002]	AX	102
[003]	富士通ビジネス機	104
[004]	ホビー機	105
[005]	IBM PC	108
[006]	ワークステーション	109
[007]	Microsoft VS Apple	110
[008]	NeXT	112
[009]	ゲーム機・ポケコン	114
[010]	開発言語	117
[011]	パソコン通信	118
[012]	電子音楽	120

1989年 ノートPC

[001]	PC-9801 - 最上位デスクトップ機・中位機	122
[002]	PC-98ハイレゾ機	125
[003]	ビジネス機	126
[004]	Σプロジェクト対応機	127
[005]	ノートPC	128
[006]	ラップトップ・ポータブル機	129
[007]	Apple	131
[008]	ホビー機	132
[009]	ポケコン・電子手帳	134
[010]	プログラムコンテスト	136
[011]	CPU	137
[012]	スーパーコンピュータ	138
[013]	アプリケーション・投稿ソフト	139

1990年 停滞する日本市場と新時代の夜明け

[001]	ホビー機・ゲーム機・プリンター	142
[002]	ワークステーション	145
[003]	Apple	149
[004]	PDA・電子手帳・複合機	151
[005]	ポケコン	153
[006]	ノート機・ハンディ機・ポータブル機	154
[007]	CPU	160
[008]	ハイレゾ機	161
[009]	OS	162
[010]	デスクトップ機	164
[011]	DOS/V	166
[012]	高解像度表示	168

1991年 DOS/Vの時代

[001]	IBMと日立の動向	170
[002]	DOS/V用ソフト	173
[003]	Macintosh	174
[004]	PC-9801	176
[005]	マルチメディアPC	181
[006]	非DOS/V機	182
[007]	FMR・EWS	183
[008]	パームトップ機・ポケコン	185
[009]	CPU	188
[010]	ゲーム	191

1992年 コンパックショック

[001]	DOS/V	194
[002]	OS	199
[003]	Apple Computer	201
[004]	PC-9801	204
[005]	ワークステーション・マルチメディアPC	208
[006]	ペン入力	211
[007]	CPU	214

1993年 Windows 3.1の世界

[001]	Windows	218
[002]	Pentium	221
[003]	サーバ	223
[004]	DOS/V	225
[005]	PC-9821シリーズ・PC-9801シリーズ・98ノート機	232
[006]	UNIX	238
[007]	ワークステーション	240
[008]	マルチメディアPC・端末	242
[009]	Apple	245
[010]	オフコンからPCへ	250
[011]	開発環境・市販ソフト	252

索引	254
----	-----

●各製品名は、一般的に各社の登録商標または商標ですが、®およびTMは省略しています。

●QRコードは(株)デンソーウェーブの登録商標です。

●本書に掲載しているサービスやアプリの情報は執筆時点のものです。今後、価格や利用の可否が変更される可能性もあります。



年代記

1974-79年

黎明

— 自作マイコンからメーカー製パソコンへ

1974年に米国でマイコンキットAltair 8800が発売され日本でも一部のホビイストがマイコンに注目します。一般には縁遠い海の向こうの話は「トレーニングキット」TK-80 (NEC) の発売 (1976年) で一変。ハンダ付けだけで動作する半完成品の登場でホビイストがマイコンの大きな可能性に気づきます。

1977年には米国で Apple II (Apple Computer)、PET 2001 (Commodore International)、TRS-80 (Tandy)、翌年には日本でベーシックマスター (日立)、COMPO BS/80 (NEC)、MZ-80K (SHARP) が発売。日米「御三家」によるパソコンの時代が始まります。



ホビー・エレクトロニクスの情報誌

Altair 8800 - 1974年12月

1974年12月、米Micro Instrumentation and Telemetry Systemsが**Intel i8080**採用の**Altair 8800**を発売(\$3,95、組み立てキット)。スイッチ入力、LED表示と入出力は限定的でしたが拡張スロット(S-100バス)を備えた柔軟性が評価されます。

Apple I - 1976年7月

1976年7月、米Apple Computerが**Apple I**を発表。CPUに米MOS Technologyの**MOS 6502**(1MHz)を採用。基本部品が実装済みの半完成品の手軽さに加えQWERTYキーボード、TV出力(40桁×24行白黒文字表示)と使いやすいI/Fが注目を集めます。

TK-80 - 1976年8月

日本でもNECが半完成品の**TK-80**(Training Kit μ COM80)を発売。**i8080**互換 μ PD8080A(2MHz)、16進キーボード、8桁7セグメントLED。翌月には秋葉原の旧ラジオ会館7階にサービスセンターBit-INNを開設。サポート拠点、情報交換のサロンとして長く利用されます。

I/O創刊 - 1976年11月

TK-80をきっかけに学生・技術者のサークルでマイコンの最新動向や機能拡張の情報交換が活発になります。ホビイスト向け情報誌が渴望される中「ホビー・エレクトロニクスの情報誌」として1976年11月25日に**I/O**が創刊。本文31ページにTVへの英数文字表示ボード製作、最新CPU Z80の解説、マイコン用パーツ店の紹介「あきはばら地図(まっぷ)」と多彩な記事を掲載。同記事は「**I/Oまっぷ**」として2024年1月号まで掲載されました。

マイコンキットの組み立て

Altair 8080 人気は多くの互換機を生み出しましたが、その多くが半完成品で出荷されたこともありユーザは初期不良や不安定な動作に悩まされます。創刊3号では当時人気のAltair 8080 互換機 **IMSAI 8080** の組立手順を掲載。配線の不具合を修正するパターンカットの方法を説明しています。

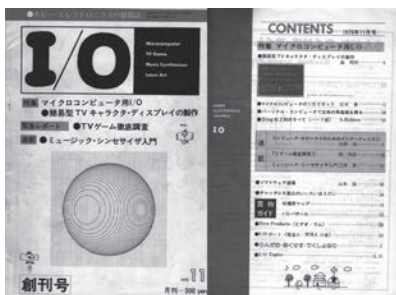
入出力デバイスの制作

TK-80 に QWERTY キーボードと TV 出力ボードを接続し 64 × 32 ドット 4 色画像を TV に表示します。

CPU の選択

i8080 以外の様々なキットが発売されます。米 Motorola (現 NXP semiconductors) **MC6800** は洗練された命令セットからソフトウェア指向のホビイストに好まれます。米 National Semiconductor (NS) の **SC/MP** (スキャンブ) は 1 チップに機能がまとまったコンパクトさからハードウェア指向のホビイストに支持されます。

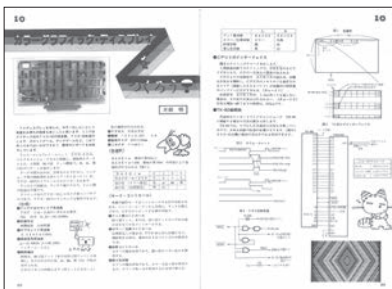
創刊当時、技術者向けのマイコンの販売が始まり製品としてのパソコンはまだありません。ユーザはハードウェアの知識を持ち、問題は自分で解決していました。電子工作の延長に近い状況は翌年、米国で「ホームコンピュータ」が登場して一変します。



▲I/O 創刊号表紙・目次 (1976 年 11 月号)



▲「あきはばら地図」と「I/O パズル」
(1976 年 11 月号)



▲カラーグラフィック・ディスプレイをつくろう
(1977 年 10 月号)



▲IMSAI 8080 の製作
(1977 年 1 月号)

▲SC/MP キット改造ものがたり
(1977 年 6 月号)



年代記

1992年

コンパックショック

高性能DOS/V機が手に届く価格で次々に登場。10月には米コンパック（当時）も参入し消費者が「世界標準機」の利点を実感します。一方MacintoshはSystem 7.1日本語版が発売。日本のユーザがSystem 7で大幅に強化された動作環境に初めて触れ人気を博しますがMotorolaのCPU開発の停滞から上位機種を展開できない状況が続きます。

NECはPC-9821シリーズの原型となるモデルを発売。98市場の延命に社運を賭けます。





DOS/V

I/O年代記

デスクトップ機

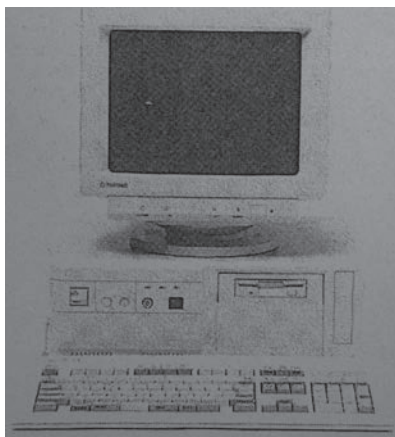
世界的な資材調達で低価格を実現します。

プロサイド JD1994SX-20/50

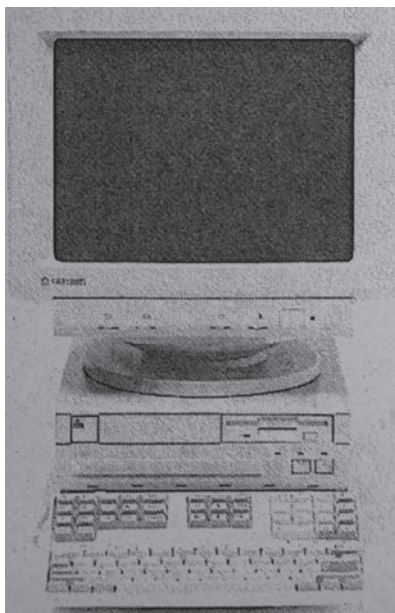
i486SX/DX (20/50MHz)、RAM 4MB (32MB)、20/200MB HDD (最大200/512MB)、SVGA、AT×5+XT×1スロット、21.9/44万円。ソード創業者設立のベンチャーがPC/AT機をDOS/V機として発売。HDD非搭載の**PC-9801FA2** (45.8万円) に対しHDD内蔵の本機は20万円超も安く市場に強い印象を残します。

プロサイド JD-1991-ROCK25

低価格機でもPC-9801FS5 (39.8万円) より20万円以上安くPC-9801を圧倒します。



▲速報! DOS/V対応486マシン(1992年7月号)



▲速報! DOS/V対応486マシン(1992年7月号)

リンク Tiny Pro486SX/DX

i486SX/DX (20/33MHz)、RAM 4MB (16MB)、SVGA (1024×768ドット16色)、3.5" FDD × 1/2、ATスロット×2、22.8/28.8万円の省スペース機です。

リンク Tiny 620/650

V30/i80286 (10/12MHz)、RAM 1MB (4MB)、CGA/VGA、3.5" FDD × 1~2、40MB HDD内蔵可能、英語DR-DOS 5.0 (ROM・620)、10.8/12.8万円、FDDサイズの超小型機です。

DEC DECpc325sxLP

価格競争から安価なAMD製CPUを採用、その後i486DX2 (内部周波数50MHz) の高性能機までラインアップを拡充します。



▲速報! DOS/V対応486マシン(1992年7月号)



▲NewMachine 超小型デスクトップ・パソコンTINYシリーズ(1992年4月号)



▲New Products DECpc325sxLPデスクトップ(1992年8月号)

■著者略歴

山崎 仁史(やまざき・ひとし)

早稲田大学理工学部、同大学院ファイナンス研究科修了(ファイナンスMBA)。

2006-2008年国際大学大学院非常勤講師。

CIIA・CMA・シニアPB(日本証券アナリスト協会)、US.CMA・CSCA(IMA)、中小企業診断士。

本書の内容に関するご質問は、

①返信用の切手を同封した手紙

②往復はがき

③E-mail editors@kohgakusha.co.jp

のいずれかで、工学社編集部あてにお願いします。

なお、電話によるお問い合わせはご遠慮ください。

サポートページは下記にあります。

[工学社サイト]

<https://www.kohgakusha.co.jp/>

 I/O BOOKS

日本パソコン黎明記 日本コンピューター激動の時代

記事で見る日本のパソコン史1974-1993

2026年9月30日 初版発行 ©2026

著 者 山崎 仁史

発行人 星 陽平

発行所 株式会社工学社

〒160-0011 東京都新宿区若葉1-6-2 あかつきビル201

電話 (03)5269-2041(代) [営業]

(03)5269-6041(代) [編集]

※定価はカバーに表示してあります。

振替口座 00150-6-22510

印刷:(株)エーヴィスシステムズ

ISBN978-4-7775-2349-8